

2023年3月期第1四半期決算 Web 会議 議事録 主な Q&A

日時 2022年8月1日 月曜日 15:00~16:00

○質疑応答○

Q1. 全社の今期の事業利益計画の見通しについて

事業利益計画を460億円から430億円に下方修正した。上期の外部環境の厳しさから加工事業本部を見直した結果であり、下期は据え置いている。各セグメントでの取組みと共に、部門横断プロジェクトなどの全社戦略等を推進していく。また、国産鶏肉市況の上昇や豪州産牛肉の生体価格下落等、当社への追い風もあることから、事業利益計画430億円以上を目指していきたい。

Q2. 加工事業本部の今期の事業利益計画の見通しについて

2月に行った価格改定効果の発現が遅れているが、販売数量が減ったことに起因している。しかし、販売数量は回復基調にあり、上期中に前年並みに戻すための施策を行っていく。10月に2度目の価格改定を予定しているが、製造コストの改善が見込まれる。数量の回復と合わせて通期を通して価格改定効果を発現し、70億円の事業利益計画を達成させたい。

Q3. 食肉事業本部の今期の事業利益計画の見通しについて

飼料価格は期初の想定を超えて高騰している。生産部門で影響を受けるが、飼料メーカーと共創し、飼料の効率化を図る。また、組織改編により収益性が高まりつつある。フード営業の回復と合わせ、バリューチェーン全体で収益を確保する。国産鶏肉市況の上昇等、当社への追い風もあることから、期初計画通りの360億円の事業利益を目指す。

Q4. 海外事業本部の事業利益計画の見通しについて

豪州産牛肉の生体価格が6月以降急落している。調達コストが下がる一方で、世界的な牛肉需要は堅調であることから、販売価格は高い水準にある。豪州事業を中心に事業利益計画30億円からの上振れを目指したい。

以上